



NEKTAR IMPACT LX^{MK3}



日本語マニュアル

Section	Page
Firmware Update Instructions	3
Impact LX ^{mk3} Overview	4
Getting Started - Octave and Transpose	5
Wheels, Foot Switch & MIDI Out	6
Scale	7
Scale & Chord lists	8
Chords	9
Hold 1&2	10
Controlling MIDI software	11
Pads	13
General keyboard settings	14
Global MIDI channel	14
Keyboard and Pad Velocity Curves, Drawbar Mode	15
Memory Backup, Low Power Mode	16
Controller MIDI Assignments	17
MIDI CC and Data 1 & 2	17
MIDI Channel Control Assign	18
Assignment Message Types	19
Save & Load Presets and Pad Maps	20
Factory Restore	21
NKS & Komplete Kontrol	22
Nektar DAW Integration	23
Looper control	26
Clips, play and record	27
FL Studio looper/pattern control	28
Mixer mode	29
Instrument mode	31
User Preset 1 GM Instrument	32
User preset 2 GM Mixer 1-8	33
User preset 3 GM Mixer 9-16	34
User preset 4 Learn friendly 1	35
User preset 5 learn friendly 2	36
Pad Maps	37

Impact LX mk3 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。私たちにとって大変光栄なことであり、この製品が今後とも皆様の音楽的創造性をさらに高めていくことを願っております。

Impact LX mk3 は USB 電源で動作しますので、付属ケーブルの USB-C コネクタを背面の USB ソケットに接続してください。USB-A コネクタをコンピューターの USB ソケットに接続してください。USB ハブをご使用の場合は、別途電源アダプターをご使用いただくことをお勧めします。バスパワーハブでも動作する場合がありますが、まずはコンピューターに直接接続することをお勧めします。

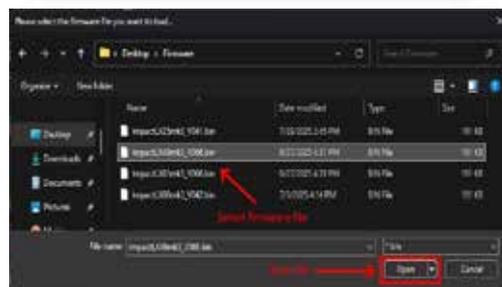
お手持ちの USB ケーブルをご使用の場合は、USB-C ポートを含むコンピューターの任意の USB ポートに接続してください。

すぐにキーボードを演奏できますが、まずはファームウェアをアップデートすることをお勧めします。

Impact LX mk3 のファームウェアをアップデートするには、以下に説明にしたがってください。非常に重要な項目ではありませんが、手順はいたって簡単です。

Firmware update

1. Impact LX mk3 が USB 経由でコンピューターに接続されていることを確認してください。ただし、この時点では電源をオフにしておきます。
2. このガイドに付属のパッケージに含まれる、Windows ファームウェアフォルダまたは MacOS .dmg ファイル内の「Nektar Update」アプリファイルを使用します。このドキュメントを当社の Web ページからダウンロードした場合は、まず Nektar ユーザーアカウントを作成し、23 ページの説明に従って製品を登録してください。
3. Nektar Update アプリケーションを起動します。
4. LX mk3 の電源がオフの状態です。[Mixer] キーと [Preset] キーを押しながら電源を入れます。ディスプレイに「Upd」と表示されます。
5. Nektar Update アプリの画面に表示される指示に従って、ファームウェアをロードしてアップデートします。
注：ファームウェアファイルがすぐに検出された場合は、「Update」をクリックしてください。手動で選択するには、[Load File] ボタンをクリックして、画像に示されているファイルを見つけます。
6. 「Load File」ボタンがグレイアウトしている場合は、アップデートアプリを一度閉じて、もう一度開いてください。
7. アップデートが完了したら、Impact LX mk3 の電源をオフにしてください。
8. 2つの [Octave] ボタンを同時に押しながら、電源をオンにします。ディスプレイに「000」と表示されたら、ボタンを放してください。このプロセスにより、本体は工場出荷時の設定に戻り、その後すべてが正常に動作するようになります。これで Impact LX mk3 の準備は完了です。次はキーボードの詳細について見ていきましょう。



Note: ファームウェアアップデートの検証中に失敗メッセージが表示された場合ステップ7と8を完了してください。次に、リストア後に表示されるファームウェアバージョンがファームウェアファイルと一致していることを確認してください。

OVERVIEW

IMPACT LX25/49/61/88



- | | | | |
|----------|---|-----------|---|
| 1 | LX mk3はモデルに応じて、ベロシティ対応の25、49、61、または88鍵の鍵盤を搭載しています。セットアップメニューで4種類のベロシティカーブと3種類の固定ベロシティ値から選択できます。 | 10 | セットアップモード時のコントロール値とメニュー選択を表示するLEDディスプレイです（[ラージエンコーダー]で、menu optionsをスクロールし、[Select]ボタンを押して確定します）。 |
| 2 | ピッチバンドとモジュレーションホイールです。任意のMIDI CCメッセージにアサインが可能です。 | 11 | 3モードボタンです。ミキサー、インストゥルメント、プリセットモードを選択します。その他のボタンは、DAWナビゲーションとNI NKSプリセットブラウジングに使用します。 |
| 3 | Octave up/downボタンです。キーボードのトランスポーズにも使用できます。-/ + 12半音で設定可能です。両方のボタンを押すと、オクターブとトランスポーズが切り替わります。 | 12 | [Page]ボタンです。Nektar DAWインテグレーション使用時に、エンコーダー（13）のコントロールオプションを切り替えます。ミキサーモードではバンドとセンドコントロールを、インストゥルメントモードではページ1と2を選択できます。 |
| 4 | Scale/Chordボタンです。スケールとコードのオン/オフを瞬時に切り替えます。長押しするとスケール/コードメニューが開き、フェーダーボタンでスケールとコードの設定をプログラムできます（LX25はパッドを使用します）。 | 13 | ミキサー、インストゥルメント、プリセットモードでの選択に応じて設定される8つのフル解像度エンコーダーです。 |
| 5 | キーボードのホールドノート機能を有効にします。デフォルトのホールドモードは、1つ以上のノートが演奏されるまで、演奏されたノートを保持します。2つ目のモードでは、キーボードを通常通り演奏しながらノートをホールドできます。詳細については、取扱説明書（PDF）をご覧ください。 | 14 | 6つのトランスポートボタンは、ループ、巻き戻し、早送り、停止、再生、録音をコントロールします。[Shift]+[Transportボタン]で、クオンタイズ、Lへ移動、Rへ移動、取り消し、クリックの代替機能も有効になります。 |
| 6 | 8つのフェーダーは、MixerモードではDAWチャンネルミキシングに、Instrumentモードではエンベロープコントロールに使用します。Presetモードでは、MIDIを完全にプログラム可能です。 | 15 | 8つのベロシティセンシティブパッドは、MIDI CCメッセージとMIDIノートの送信をプログラムできます。[Shift]+[Pad Learn (16)]を押すと、パッドを押してMIDIノートをプログラムできます。キーボードのキーを弾くと、そのキーが演奏されます。Setupメニューで、8つのパッドマップロケーションのいずれかに保存してください。 |
| 7 | 8つの点灯するフェーダーボタンは、Mixerモードではチャンネルのミュートまたはソロに、Instrumentモードではインストゥルメントパラメータのコントロールに使用します。PresetモードではMIDIによるフルプログラミングが可能です。 | 16 | 上下矢印ボタンは、次/前のパッドマップをロードします。いずれかのボタンを押しながらパッド1~8を叩くと、クイックセレクトが可能です。 |
| 8 | Looperボタンは、ルーパー機能をサポートしているDAWでのみ使用できます。[Shift]+[Looper]を押すとルーパーと現在のモードが切り替わり、[Looper]を押すとルーパー録音がオンになります。 | 17 | 電源オン/オフスイッチです。 |
| 9 | ラージエンコーダーは、モード選択とは関係なく、グローバルコントロールに使用されますが、Setupモードが有効な場合はメニュー選択にも使用されます。Nektar DAWインテグレーションでは、対応するボタンは、ボリューム、インストゥルメントパラメータ、選択パラメータの3つのオプションを切り替えるために使用されます。 | 18 | 電源とデータ通信用のUSB-Cポートです。付属のUSB C-Aケーブル、または別売のUSB C-Cケーブルをご使用ください。 |
| | | 19 | フットスイッチ（別売、オプション）接続用の1/4インチTSジャックです。フットスイッチソケットは任意のMIDIメッセージを送信するようにプログラムできますが、デフォルトではサステインメッセージを送信するように設定されています。極性は電源投入時に自動的に検出されます。
注：エクスペッションペダルと併用することはできません。 |



ファームウェアのアップデートが完了し、Impact LX mk3 をコンピューターに接続すれば、すぐに使用できます。Impact LX mk3 は OS のクラスコンプライアント MIDI ドライバーを使用するため、どの MIDI ソフトウェアでも認識されます。

DAW との連携については別のマニュアルで説明しているため、ここでは主にキーボードと MIDI 機能について説明します。前のページでは Impact LX mk3 の概要を視覚的に説明しましたが、ここではより詳細に説明します。

キー（鍵盤）

Impact LX mk3 のキーボードは非常にレスポンスが良く、低いベロシティ値から徐々にベロシティ値を上げていくことができます。デフォルトのベロシティカーブで十分なら問題ありません。より高いベロシティ値に簡単に少ない力で達したい場合は、他のベロシティオプションを試して、ご自分の演奏スタイルに最適なカーブを見つけてください。ベロシティカーブは 4 種類、固定ベロシティカーブは 3 種類あります。設定方法は以下の通りです。

- [Shift] + [Preset] ボタンを押して Setup モード（プリセットボタンの下に表示）を起動します。
- ラージエンコーダー（9）を回すと、ディスプレイに「Set」と表示されます。これが Setting メニューです。
- エンコーダーの横にある [Select] ボタンを押します。
- エンコーダーを回すと、ディスプレイに「uCU」と表示れるので、[Select] を押します。
- エンコーダーを使って、4 つのカーブ（uC1~4）と固定カーブ（uF1~3）をスクロールします。

キーボードを弾きながらカーブを変更し、最適なカーブが見つかるまで調整してください。カーブの詳細については 15 ページをご覧ください。

Octave と transpose ボタン

[Octave] ボタンのいずれかを押すと、キーボードで演奏された音符が 1 オクターブずつ上下にシフトします。

ディスプレイには現在のオクターブシフト値が表示されます。[Octave] ボタンのいずれかを押し続けると、値が 0 に戻ります。

これらのボタンはトランスポーズボタンとしても機能します。トランスポーズを使用すると、キーボードで演奏した音符を半音単位で（または 1 半音単位で）シフトできます。-12 から 12 までの任意の音程をカバーします。

- オクターブとトランスポーズを切り替えるには、2 つの [Octave / transpose] ボタンを同時に押します。トランスポーズが選択されている場合はディスプレイに「TRA」と表示され、オクターブが選択されている場合は「OCT」と表示されます。例えば、G の曲を演奏していて、Ab のような少し高いキーで演奏したい場合は、トランスポーズを 1 に設定します。G から E にトランスポーズするには、G から E までのキーを数え、トランスポーズの値を -3 に設定します。
- トランスポーズを 0 にリセットするには、ディスプレイに「0」と表示されるまでいずれかのボタンを押し続けます。

ピッチバンドとモジュレーションホイール

OctaveボタンとTransposeボタンの下にある2つのホイールは、ピッチバンドとモジュレーションホイールです。ピッチバンドホイールはスプリング式で、手を放すと自動的にセンター位置に戻ります。ピッチバンドを必要とするフレーズを演奏する際の音程調整に最適です。バンド範囲は受信側の楽器によって決まります。モジュレーションホイールは自由に位置を調整でき、デフォルトではモジュレーションをコントロールするようにプログラムされています。ピッチバンドホイールとモジュレーションホイールはどちらもMIDIアサイン可能です。任意のMIDI CCメッセージ、アフタータッチ、さらにはピッチバンドメッセージ（モジュレーションホイールの場合）を送信するように設定できます。設定は電源を入れ直しても保持されるため、電源を切ってもそのまま失われません。

ピッチバンドとモジュレーションのアサインは、Impact LX mk3のプリセットには保存されません。アサインをデフォルトに戻すには、ピッチバンドのアサインタイプを「Pb」に設定し、モジュレーションホイールをMIDI CC「01」に設定します。

フットスイッチ

Impact LX mk3 キーボード背面の 1/4 インチジャックソケットに、フットスイッチペダル（別売、付属していません）を接続できます。正しい極性は起動時に自動的に検出されます。起動完了後にフットスイッチを接続すると、フットスイッチが逆方向に動作する場合があります。これを修正するには、以下の手順に従ってください。

- Impact LX mk3 の電源をオフにします。
- フットスイッチが接続されていることを確認します。
- Impact LX mk3 の電源をオンにします。これでフットスイッチの極性が自動的に検出されるはずですが。

ホイールと同様に、フットスイッチソケットにも任意の MIDI CC メッセージを送信するようにアサインできます。デフォルトのアサインは MIDI CC 64 です。

MIDI Output ジャック (LX88mk3 のみ)

Impact LX88 mk3 背面の MIDI Out DIN コネクタには、音源モジュールやシーケンサーなどの他の MIDI 機器を接続できます。Impact LX88 から MIDI ケーブル（別売）を接続します。mk3のMIDI Outを受信デバイスのMIDI入力に接続します。

MIDI OutをUSB-MIDIインターフェースとして使用することもできます。コンピュータ上の音楽アプリケーションやDAWを使用して、ソフトウェアからのMIDIメッセージをImpact LX88 mk3のMIDI Out経由で外部MIDIハードウェアにルーティングできます。USBからMIDI Outを使用するようにポート設定を変更する方法は次のとおりです。

- [Shift] + [Preset]ボタンを押して、Setupモード（Presetボタンの下に表示）を起動します。
- ラージエンコーダー（9）を回して、ディスプレイに「Set」と表示されるまで回します。これがSettingメニューです。
- エンコーダーの横にある[Select]ボタンを押します。
- エンコーダーを回してディスプレイに「Out」と表示されるまで回し、[Select]を押します。
- 大きなエンコーダーを使って、USB経由の出力を「On」に設定します。
- [Shift] + [Preset/Setup]ボタンを押して終了します。

[Scale/Chord]ボタンは、スケールとコード機能の両方のマスターコントロールです。スケールとコードは、スケール/コードメニューで個別に有効/無効を切り替えることができます。[Scale/Chord]を押すと有効になり、キーボードの白鍵と黒鍵の両方を演奏できます。

デフォルトのスケールはメジャースケールに設定され、その主音（スケールの最初の音）はCに設定されています。この設定では、黒鍵を弾くと、その下の白鍵と同じ音を演奏することになり、すべての音符がメジャースケールとCのキーの範囲内に保たれます。これは、異なるスケールタイプやコードを使用する場合に特に重要になります。

例えば、ブルースの9音スケールには複数の半音間隔が含まれているため、Cのキーでは、一部の黒鍵で通常の音がトリガーされます。様々なキーで様々なスケールを試す際に、スケール機能を使用すると、テクニックを完璧に習得することなく、簡単に作成できます。これは、コードメニューを考慮するとさらに当てはまりますが、これについては後ほど詳しく説明します。

機能をいくつか見ていきましょう。

Scale/Chordメニュー

Scale/Chordメニューを起動するには、[Scale/Chord] ボタンを長押し（約2秒間押し続けます）します。フェーダー下の LED ボタンの点灯状態が更新されます（LX25 mk3 ではパッドを使用します）。下の画像では、[Scale On] が有効で、[Scale Select] と [Scale Tonic] がオフ（暗く点灯）になっています。



- [Scale On] : スケールのオン/オフを切り替えます。このオプションを選択すると、スケールの影響を受けずにコード機能を使用できます。スケールとコードの両方が有効になっている場合、コードは選択したスケール内の音のみを演奏します。
- [Scale Select] : ラージエンコーダーを押しながら回すと、スケール S01 から S11 を選択できます（次ページの表を参照）。目的のスケールが見つかったら放します。
- [Scale Tonic] : スケールの主音（最初の音）を設定します。主音をAbに設定すると、キーボードのすべてのキーで現在のスケール内の音符がAbのキーで演奏されます。スケールの最初の音符は、Ab/G#に対応する黒鍵で演奏されます。（「トリガー」を「対応する」に言い換えました。より直接的に聞こえるためです。）

ヒント：主に白鍵で演奏し続けたい場合は、主音を設定する代わりにトランスポーズを使用してください。Ab/G#のキーで演奏するには、トランスポーズを-4に設定し、主音はCのままにしておきます。

Scale/Chordメニューの終了

メニューを終了してフェーダーボタンを他の用途に戻すには、[Scale/Chord]ボタンを長押しします。

厳選されたリストには、新たな創造性を刺激する多様性に富んだ、最も役立つスケールが含まれています。お気に入りのスケールがリストにない場合は、お気軽にお知らせください。アップデートで追加できるよう努めます。

メールアドレス: suggestions@nektartech.com

Scales

Scale No	Name	Scale No	Name
S01	Major	S07	Pentatonic
S02	Major Harmonic	S08	Flamenco
S03	Minor Melodic	S09	Blues 9 Note
S04	Minor Harmonic	S10	Blues 6 Note
S05	Gypsy	S11	Arabic Hijaz

Chords

コードリストには2音ハーモニーから5音ハーモニーまでが収録されており、C20~23は2音ハーモニー、C3~C33は3音ハーモニーなど、適切にグループ化されています。[Sub-octave]を有効にすると、演奏された音の1オクターブまたは2オクターブ下のルート音を追加でき、より豊かなコードを作成できます。スケールを有効にすると、メジャーコードを選択し、必要に応じてスケール設定でマイナーコードに調整することで、最良の結果が得られます。コードの詳細については、次のページをご覧ください。

Chord No	Name	Chord No	Name
C20	Dyad (2 notes) minor 3rd	C40	M7
C21	Dyad (2 notes) major 3rd	C41	Major 7
C22	Dyad (2 notes) fifth	C42	Maj7
C23	Dyad (2 notes) octave	C43	Diminished
C30	Minor	C50	Major 9th
C31	Major	C51	11th spread
C32	Sus2	C52	11th compact

コード設定はScale/Chordメニューの一部で、このメニューは[Scale/Chord]ボタンを長押し（約2秒）することで起動します。[Scale On]が有効な場合、現在選択されているスケールがコードに適用され、コードノートがスケールに合わせて調整されます。

例えば、デフォルトのメジャースケールとメジャーコードを選択した場合、Cを演奏すると、予想どおりCメジャーコードになります。Aを演奏するとAマイナーコードになります（C#はCに調整されます）。そのため、スケール内のマイナーコードを演奏するためにマイナーコードタイプを選択する必要はありません。



[Chord On] : コードモジュールを有効にします。前述の通り、スケールとコードを同時に使用すると、演奏されたコードが選択したスケールに合わせて調整されます。

[Chord Type 1, 2, 3] : これらのボタンのいずれかを押しながら、ラージエンコーダーを回してコードタイプを選択します（前ページのリストを参照）。各ボタンにコードタイプを選択し、演奏中にリアルタイムで切り替えることができます。コードタイプボタンを押すだけで選択できます。

[Chord inversion] : コードの転回形は、ルート以外の音を最低音として演奏するようにコードを並べ替えます。[Chord Type] を押すと転回形が切り替わります。[Chord Type 1, 2, 3] では、それぞれに転回形が設定され、同じコードタイプを演奏するように設定できます。これにより、好みに応じて、よりコンパクトまたはストレッチされたボイスングを実現できます。

[Sub Root] : 有効にすると、ルート音（キーボードで演奏する音）が、演奏した音の1オクターブまたは2オクターブ下に複製されます。[Sub Root]を押しながらラージエンコーダーを回して -1 または -2 を選択します。

ユーザーコードの作成

Impact LX mk3は、最大6音のユーザーコードを2つ保存できます。ユーザーコードの選択方法は、プリセットコードと同じです。

1. [Chord Type]ボタンのいずれかを押しながら、ラージエンコーダーをリストの最後尾まで動かし、「Ur1」または「Ur2」を選択します。
2. ユーザーコードを選択したら、コードをプログラムします。
3. 選択した[Chord Type]ボタンを押し続けます。
4. コードのルート音を最初に弾く鍵盤を押します。
5. 最大5つの鍵盤を押してコードを完成させます。鍵盤を押し続ける必要はありません。1つずつ弾くことができます。
6. [Chord Type]ボタンを放します。

プログラムしたユーザーコードは、転回形の選択やサブルート機能を含め、ライブラリコードと同様に使用できます。

Scale/Chordメニューの終了

メニューを終了し、フェーダーボタンを他の用途に戻すには、[Scale/Chord]ボタンを長押しします。

[Hold] を有効にすると、キーボードで演奏したノートは、別のノート（または複数のノート）が演奏されるまでホールドされます。

メロディーラインを完全なレガートで演奏したり、アンビエントな雰囲気を出すために連続和音で演奏したりできます。

MIDI 用語で言えば、これは通常キーを放したときに送信される MIDI ノートオフメッセージを延期することで実現されます。1 つ以上のノートが演奏されると、延期された MIDI ノートオフメッセージが最終的に送信され、ノートが終了し、新しい MIDI ノートオンメッセージが送信されます。

[Hold] を無効にすることで、現在ホールドされているノートを終了（つまり、ノートオフメッセージを送信）できます。

Hold 1 と Hold 2

上記は、分かりやすく使いやすいデフォルトの Hold 1 モードについて説明しています。Hold 2 モードには、ノートをホールドしたまま演奏したり、いつでもノートを追加したり削除したりできる、より多くのオプションがあります。

以下で「押す」と記載されている場合、実際には「ホールドする」という意味ですが、「ホールド」を何度も使用すると文章が複雑になるのを避けるため、「押す」を使用しています。

<目黒注：この文、必要ないです。>

- H1からH2に切り替えるには、[Hold]ボタンを押し（ホールド）、ラージエンコーダーを動かしてH2を選択します。その後、[Hold]ボタンを放します。

[Hold]ボタンがオンになっている間は、通常通りキーボードを演奏できます。これは意図的な動作であり、すぐに説明できます。

ノートをホールドする方法を見ていきましょう。

- [Hold]ボタンを押し、キーを弾いてから放します。これでキーがホールドされた状態になり、[Hold]ボタンを放すことができます。
- [Hold]ボタンを放すと、ホールドされているノートに影響を与えずにキーボードを演奏できるようになります。ホールドされているキーを弾いても、トリガーは鳴りません。
- ノートを追加するには、上記の手順を繰り返しますが、今回は別のノートを弾きます。
- ノートを終了/削除するには、上記の手順を繰り返しますが、今回はホールドされているノートを弾きます。
- 上記の手順を繰り返すか、キーを同時に、または順番に押すことで、複数のノートをホールドできます。
- すべてのノートをホールドするには、[Hold] をオフにします。

Impact LXmk3は、DAWやその他のMIDIソフトウェアをコントロールするための様々なオプションが用意されています。コントロールの設定方法は3通りあります。

1. 既存のDAWで使用するために、Impact DAWインテグレーションファイルをインストールします（対応DAWリストに記載されている必要があります）。
2. コントローラーラン機能を使用してDAWをセットアップします。
3. お使いのソフトウェアに合わせてImpact LXmk3のコントロールをプログラミングします。

オプション1では、DAWインテグレーションファイルをインストールし、付属のPDFガイドに従います。ユーザーアカウントを作成し、Nektar製品をwww.nektartech.com/registrationで登録する必要があります。セットアップ手順の詳細については、「[Nektar入門<リンク>](#)」ページをご覧ください。

DAWのラン機能やImpactのプリセットを使用する場合は、Impact LXmk3の構造と、アサインがメモリにどのように保存されるかを理解するために、この章をお読みになることをお勧めします。

ミキサー、インストゥルメント、プリセット

Impact LXmk3には、ユーザーが設定可能なプリセットが5つ付属していますが、実際に使用できるプリセットは合計7つです。これは、ミキサーボタンとインストゥルメントボタンがそれぞれ読み取り専用のプリセットを呼び出すためです。各プリセットには、8本のフェーダー、8本のフェーダーボタン、8本のエンコーダーのコントロール設定が保存されています。プリセットボタンは、現在選択されているユーザープリセットを呼び出します。5つのユーザープリセットを呼び出すには、以下の2つの方法があります。

1. [Preset]ボタンを押しながらラージエンコーダーを動かし、プリセットの選択を変更します。
2. Setupメニューを使用して、特定のプリセットをロードします。

以下に、5つのプリセットのデフォルトの設定一覧を示します。これらのプリセットは、MIDI設定でカスタマイズできます。MIDI設定については、このガイドの後半で説明します。

PRESET	DESCRIPTION
1	GM Instrument preset
2	GM Mixer 1-8
3	GM Mixer 9-16
4	Learn friendly 1 (Fader buttons Toggle)
5	Learn friendly 2 (Fader buttons Toggle)

プリセット1、4、5はグローバルMIDIチャンネルで送信するように設定されています。つまり、グローバルMIDIチャンネルを変更すると、これらのプリセットの送信MIDIチャンネルも変更されます。16のMIDIチャンネルが利用できるため、16通りの独自のセットアップを作成し、MIDIチャンネルを変更するだけで簡単に切り替えることができます。

5つのプリセットそれぞれのコントローラーアサインリストは、[33-37ページ](#)に記載されています。

グローバルコントロール (Global controls)

グローバルコントロールには、プリセットやパッドマップを読み込んでも変更されない設定が1つだけあります。グローバルコントロールは以下のとおりです。

- ピッチバンドとモジュレーションホイール
- フットスイッチソケット
- 6つのトランスポートボタン

各グローバルコントロールは、17ページの「コントロールアサイン」セクションの説明に従ってアサインできます。

ラージエンコーダーもグローバルコントロールの一種ですが、アサインは固定されています。

8つのパッドはベロシティ対応で、ノートまたはMIDIスイッチメッセージでプログラム可能です。つまり、ドラムビートやパーカッシブなメロディーパートを演奏するだけでなく、通常のMIDIボタンとしても使用できます。パッドには4つのベロシティカーブと3つの固定ベロシティオプションがあります。

1. パッドの右側にある[上下]矢印ボタンを押して、次または前のパッドマップをロードします。
2. [上下]矢印ボタンのいずれかを押したまま、ロードしたいパッドマップに対応するパッド番号を押します。例えば、パッドマップ7をロードするには、[pad 7]を押します。



35ページには、4つのパッドマップのデフォルトのアサインが示されています。マップ1は半音階で、マップ2に続きます。ドラムセットアップがこのように配置されている場合（多くの場合）、マップ1を使用してドラム1～8に、マップ2を使用してドラム9～16にアクセスできます。

パッドラーン (Pad Learn)

パッドラーン機能を使えば、パッドのノートアサインを簡単に変更できます。手順は以下のとおりです。

1. Functionボタンの組み合わせ
[Shift]+[Pad Learn]を押します。ディスプレイが点滅し、デフォルトで選択されているパッドとしてP1（パッド1）が表示されます。
2. 新しいノート値をアサインしたいパッドを押します。ディスプレイが点滅し、選択したパッドの番号が表示されます。
3. パッドにアサインしたいノートに対応するキーボードのキーを押します。目的のノートが見つかるまで、キーボードで音符を弾き続けることができます。
4. 手順2と3を繰り返して、他のパッドにもノートをアサインします。
5. 完了したら[Shift]+[Pad Learn]を押します。新しいアサインは、別のパッドマップが読み込まれるまでメモリに保存されます。

パッドへのMIDIメッセージのプログラミング

パッドはMIDIスイッチボタンとしても使用できます。詳しくは、17ページの「Setup」セクションをご覧ください。コントロールのプログラミング方法について説明しています。

パッドベロシティカーブ

4種類のベロシティカーブと3種類の固定ベロシティ値から選択できます。ベロシティカーブとその選択方法の詳細は、Setupメニューの項をご覧ください。パッドベロシティカーブの詳細については15ページをご覧ください。

- [Shift] + [Preset]ボタンを押してセットアップ・モードを起動します（プリセット・ボタンの下に表示）。
- ラージエンコーダー（9）を回して、ディスプレイに「Set」と表示させます。これが設定メニューです。
- エンコーダーの横にある[Select]ボタンを押します。
- エンコーダーを回してディスプレイに「PCU」と表示させ、[Select]を押します。
- エンコーダーを使って、4つのカーブ（uC1～4）と固定カーブ（uF1～3）をスクロールできます。

Setupメニューでは、キーボードの設定やMIDIコントロールのプログラミングを行います。

- Setupメニューを起動するには、[Shift]+[Preset>] (Setup) を押します。
- Setupメニューを終了するには、上記の手順をもう一度行います。

Setupメニューが起動すると、ディスプレイに「Ctl」と表示されます。

コントロール (Ctl) メニューには、Impact LXmk3 のすべてのコントロールに対するMIDIアサインオプションが含まれています。

セットアップ (Set) メニューでは、ベロシティカーブの選択、メモリダンプの実行、その他の一般的なセットアップ機能を実行します。

まずは、Settingメニューを見てみましょう。

- ラージデータエンコーダーを動かして「Set」を選択します。
- ラージエンコーダーとペアになっている [Select] ボタンを押して「Set」を選択します。

これで、ラージエンコーダーを使って設定メニューのオプションをスクロールできるようになりました。

1. グローバルMIDIチャンネル (GCh)
2. キーボードベロシティカーブ (VCU)
3. パッドベロシティカーブ (PCU)
4. フェーダーのドローバーモード (drb)
5. メモリダンプ (Mem)
6. 低電力モード (LP)
7. メインメニューに戻る (Bac)

オプションを選択するには、[Select] ボタンを押します。

グローバル MIDI チャンネル (GCh)

キーボードは常にグローバル MIDI チャンネルで MIDI を送信します。ボタン、フェーダー、エンコーダー、パッドなどのその他のコントロールは、16 個の MIDI チャンネルのいずれかで送信するように個別にプログラムできます。

キーボードを含むすべてのコントロールは、初期設定でグローバル MIDI チャンネル 1 で送信するように設定されています。

- 上記のように、Setup が有効で、「Set」が選択されていることを確認します。
- ラージエンコーダーを操作してディスプレイに「GCh」と表示されたら、[Select] を押します。
- ラージエンコーダーを操作して、MIDI チャンネルを 1 ~ 16 の値に設定します。
- [Select] を押してメニューリストに戻るか、[Shift]+[Preset/Setup] を押して終了します。

キーボードベロシティカーブ (vCU)

Impact LX mk3 には、4 種類のカーブと 3 種類の固定カーブを含む、7 種類のキーボードベロシティオプションがあります。まずはデフォルトのカーブでしばらく演奏してみて、お好みに応じて他のオプションに変更してください。

- 14 ページの説明に従って、Setup が有効で「Set」が選択されていることを確認してください。
- ラージエンコーダーを操作してディスプレイに「uCU」と表示されたら、[Select] を押します。
- ラージエンコーダーを操作して、ベロシティカーブ「uC1-4」または固定ベロシティ値「FCU 1-3」を選択します。キーボードを演奏しながら、ベロシティ値を調整できます。
- [Select] を押すとメニューリストに戻り、[Shift]+[Preset/Setup] を押すと終了します。

Curve No	Name	Fixed No	Name
VC1	デフォルト - ほとんどの用途に適したバランスの取れたカーブ	VF1	固定ベロシティ (127)
VC2	ダイナミック - 広いベロシティ範囲のカーブ	VF1	固定ベロシティ (100)
VC3	ハード1 - デフォルトの音量を少し上げたカーブ	VF1	固定ベロシティ (64)
VC4	ハード2 - 高いベロシティ値を強調するカーブ		

パッドカーブ (PCU)

4種類のパッドベロシティカーブと3種類の固定ベロシティレベルから選択できます。キーボードカーブと同様に、デフォルトのカーブで演奏してみて、自分に合わない場合は変更してください。

Curve No	Name	Fixed No	Name
PC1	デフォルト - 中から高のベロシティレベルにフォーカスしたカーブ	PF5	固定ベロシティ (127)
PC2	低から中のベロシティレベルにフォーカスしたもっともダイナミックなカーブ	PF6	固定ベロシティ (100)
PC3	高ベロシティレベルにフォーカスしたカーブ	PF7	固定ベロシティ (64)
PC4	低から高までリニアなベロシティカーブ		

- 14ページの説明に従って、Setupが有効で「Set」が選択されていることを確認してください。
- ラージエンコーダーを回してディスプレイに「PCU」と表示させ、[Select]を押します。
- ラージエンコーダーを回して、ベロシティカーブ「PC1-4」または固定ベロシティ値「PF1-3」を選択します。パッドを演奏しながら変更を加えることができます。
- [Select]を押してメニューリストに戻るか、[Shift]+[Preset/Setup]を押して終了します。

ドローバーのオン/オフ (drb)

ドローバー機能は、8本のフェーダーの出力値をデフォルトの0~127から127~0に反転します。これは、Data 1とData 2をプログラムする際に、コントロールの最小値/最大値を反転させることでも実現できます。ただし、プリセット内で反転を永続的に変更したくない場合は、この機能が最適です。有効化方法は以下の通りです。

- 14ページの説明に従って、Setupが有効で「Set」が選択されていることを確認します。
- ラージエンコーダーをディスプレイに「drb」と表示されるまで動かす、[Select]を押します。
- ラージエンコーダーを回して、ドローバーを「On」または「Off」に設定します。
- [Select]を押してメニューリストに戻るか、[Shift]+[Preset/Setup]を押して終了します。

メモリーダンプ (MEM)

メモリーダンプ機能は、MIDI SysExデータの送信を含む、現在のコントローラーアサイン設定のバックアップを行います。このデータはDAWなどのSysExデータの記録が可能なアプリケーションに記録され、設定をリロードする際にImpact LXmk3キーボードに再生/送信できます。

バックアップ用のSysExメモリーダンプの送信方法：

- MIDIソフトウェアアプリケーションが設定され、MIDI Sysexデータの記録が可能になっていることを確認します。
- 録音を開始します。
- 14ページの説明に従って、Setupがアクティブで「Set」が選択されていることを確認します。
- ディスプレイに「MEM」と表示されるまでラジエンコーダーを回し、[Select]を押します。
- MIDI SysEx メモリデータの送信中は、ディスプレイに「SYS」と表示されます。
- ソフトウェアでデータの受信が停止し、ディスプレイに「000」と表示されたら、録音を停止します。

これで、Impact LXmk3 のメモリの内容が MIDI ソフトウェアに記録され、セットアップモードが終了します。

メモリーダンプ/バックアップの復元

メモリーダンプ/バックアップ MIDI SysEx ファイルは、いつでも Impact LXmk3 に送信できます。本体の電源を入れた状態で、SysEx データを含む MIDI ソフトウェアまたはトラックの出力先として Impact LXmk3 が設定されていることを確認してください。送信または再生をオンにして、本体を更新してください。

低電力モード (LP)

Impact LXmk3 は、iPad からの接続と電源供給を可能にするため、またはバッテリー駆動のノートパソコンで動作させる際にバッテリーを節約するために、低電力で動作させることができます。

低電力モードがオンの場合、すべてのパッド LED は消灯します。LED を再び点灯させるには、もう一度低電力モードをオフにします。

- 14ページの説明に従って、Setupがアクティブで「Set」が選択されていることを確認してください。
- ラジエンコーダーを動かして、ディスプレイに「LP」と表示されたら、[Select]を押します。
- ラジエンコーダーを動かして、低電力モードを「オン」または「オフ」に設定します。
- [Select]を押すとメニューリストに戻り、[Shift]+[Setup/Preset]を押すと終了します。

戻る (Bac)

「Bac」を選択し、[Select]を押すと前の階層に戻ります。

すべてのアサイン可能なコントロールは、ソフトウェアを使わずにデバイス上で直接プログラムできます。すべてのアサインは電源を入れ直しても保存されるため、少なくとも上書きしたり、プリセットやパッドマップをロードしたりするまでは設定が保護されます。

大規模な変更を行った場合は、保存することをお勧めします。

- コントロールのアサインを開始するには、まず[Shift]+[Setup]を押してSetupモードを起動します。
- [Select]ボタンとラージエンコーダーを組み合わせで「Ctl」を選択します。

ラージエンコーダーを使用してメニュー内のオプションをスクロールできます。メニューの順に各オプションについて説明します。

MIDI CC (CC)

この機能を使用すると、コントロールのMIDI CC番号を変更できます（該当する場合。アサインタイプはMIDI CCである必要があります）。ほとんどのコントロールは、デフォルトでMIDI CCメッセージを送信するようにアサインされています。操作方法は次のとおりです。

1. ディスプレイに「cc」が表示されていることを確認し、[Select]ボタンを押します。
2. コントロールを動かすか押して選択します。ディスプレイに表示される値は、現在アサインされているMIDI CCメッセージ（000～127）です。
3. ラージエンコーダーを回してMIDI CC値を変更します。アサインの変更は瞬時に反映されるため、変更後にSetupメニューを終了しても、変更は有効のままです。
4. [Select]をプリセットして変更を確定し、オプション選択に戻るか、手順2～3を繰り返して別のコントロールをアサインします。

データ1とデータ2の値（d1、d2）

データ1とデータ2のオプションは、次のページの表に示すように、一部のコントロールアサインで必須です。ファクトリープリセットでは、主に標準的なMIDI CCアサインが使用されており、最小値（データ1）のMIDI CC値は1、最大値（データ2）は127に設定されています。コントロールは、次のページの表に従って、その間の任意のMIDI値、またはその他の適切な設定に調整できます。Data 1とData 2の値を変更する方法は次のとおりです。

1. ディスプレイにControlメニューのオプション（cc、d1、d2など）が表示されていない場合は、[Select]を押して戻ります。
2. ラージエンコーダーを動かし、Data 1のディスプレイに「d1」と表示され、[Select]を押します。
3. 編集するコントロールを移動または押して選択します。
4. ラージエンコーダーを動かしてData 1の値を設定します。
5. 他のコントロールのData 1を編集するには、手順3と4を繰り返します。
6. [Select]を押してメニュー選択に戻り、手順2～5を繰り返して、Data 2のメニュー「d2」を選択して値を調整します。

次のページの表は、各アサインタイプにおけるData 1とData 2の設定の概要を示しています。

Controller type	Assignment type	Data 1	Data 2
Pitch bend	MIDI cc	Min value	Max value
Mod wheel	Aftertouch	Min value	Max value
Faders 1-8	Pitch bend	Min value	Max value
Encoders 1-8			
Buttons 1-8	MIDI cc toggle	cc value 1	cc value 2
Transport btns	MIDI cc trigger/release	Trigger value	Release value
Foot switch	Note	Note on velocity	MIDI note #
Pads 1-8	Note toggle	Note on velocity	MIDI note #
	MIDI Machine Control	Sub-ID #2	n/a
	Program	Program no	n/a
	Global MIDI channel select	1-16	n/a

MIDIチャンネルアサイン (Ch)

各コントロールは、特定のMIDIチャンネルで送信することも、グローバルMIDIチャンネルに従うこともできます。- General MIDIミキサーのプリセットは、受信側デバイスまたはソフトウェアが複数のMIDIチャンネルで受信可能な場合、特定のMIDIチャンネルの使用法の例を示しています。

1. メニュー (CC、d1など) から「Ch」を選択し、[Select]を押します。
2. コントロールを動かすか押して選択します。ディスプレイに表示される値は、選択したコントロールに現在アサインされているMIDIチャンネル (000~16) です。
3. ラージエンコーダーを動かしてMIDIチャンネルを変更します。
4. 手順2~3を繰り返して、他のコントロールのMIDIチャンネルを変更します。
5. [Select]を押してメニューに戻ります。

注： MIDIの仕様では、1~16の16個のMIDIチャンネルが使用できます。000を選択すると、コントロールはグローバルMIDIチャンネルにアサインされます。デフォルトのプリセットのほとんどは、コントロールをグローバルMIDIチャンネルにアサインされるため、コントロールを動かすとこの値が頻繁に表示されることがあります。

アサインタイプ (ASG)

Data 1とData 2のセクションで、アサインタイプについてすでに触れました。基本的なMIDI CCコントロールを超えるコントロールアサインを行う場合、アサインタイプは最初に行うべき変更点と言えるでしょう。

各アサインタイプの表示略語は、Data 1 & 2セクションの表に追加されています。

1. メニュー (CC、d1など) から「Asg」を選択し、[Select]を押します。
2. コントロールを動かすか押して選択します。ディスプレイに現在選択されているアサインタイプが表示されま
3. ラージエンコーダーを動かしてアサインタイプを変更します。
4. 手順2~3を繰り返して、他のコントロールのアサインタイプを変更します。
5. [Select]を押してメニューに戻ります。

Nektar DAWインテグレーションを使用していて、プログラムメッセージを送信したり、グローバルMIDIチャンネルを変更したりしたい場合は、例えばプリセットモードでフェーダーボタンやパッドをプログラムすることで実行できます。

Controller type	Assignment type	Data 1	Data 2	Display abbreviations
Pitch bend	MIDI cc	Min value	Max value	CC
Mod wheel	Aftertouch	Min value	Max value	At
Faders 1-8	Pitch bend	Min value	Max value	Pbd
Encoders 1-8				
Buttons 1-8	MIDI cc toggle	cc value 1	cc value 2	Tog
Transport btns	MIDI cc trigger/release	Trigger value	Release value	Trg
Foot switch	Note	Note on velocity	MIDI note #	n
Pads 1-8	Note toggle	Note on velocity	MIDI note #	nt
	MIDI Machine Control	Sub-ID #2	n/a	nnc
	Program	Program no	n/a	Prg
	Global MIDI channel select	1-16	n/a	GCh

プリセットとパッドマップは、保存メニューから保存できます。保存される内容は以下の通りです：

- 5つのプリセットそれぞれには、8つのエンコーダー、8つのフェーダー、8つのLEDボタンのプログラム済みMIDI設定が含まれます。
- 8つのパッドマップは、8つのパッドの設定を保存し、合計64個のプログラム可能なパッドを実現します。

プリセットの保存 (Sav)

1. メニュー (CC、d1など) から「Sav」を選択し、[Select]を押します。
2. データエンコーダーを動かして、5つのプリセット位置 (Pr1-5) をスクロールします。
3. [Select]を押すと、現在の設定が選択したプリセット位置に保存されます。

パッドマップの保存 (Sav)

パッドマップの保存手順はプリセット保存と同様ですが、手順2で目的のパッドマップを選択する際にはパッドの[上/下矢印]ボタンを使用します。

1. メニュー (CC、d1など) から「Sav」を選択し、[Select]を押します。
2. パッドの[上/下矢印]ボタンを押して、パッドマップの保存先 (PM 1-8) を選択します。
3. [Select]を押すと、現在の設定が選択したパッドマップ保存先に保存されます。

プリセットのロード (Lod)

プリセットをロードすると、現在のプリセット設定がすべて保存された設定に置き換わります。現在の設定を保持したい場合は、まず保存してください。

ロードするには、[プリセット]を押したままデータエンコーダーを回して5つのプリセット位置をスクロールします。プリセットが選択されるとすぐにロードされることに注意してください。

コントロールメニューからもロード可能なため、セットアップを終了せずに新規プリセット作業が可能です：

1. メニュー (CC、d1など) から「Lod」を選択し、[Select]を押します。
2. データエンコーダーを動かして5つのプリセット位置 (Pr1-5) をスクロールします。
3. 選択したプリセットをロードするには[Select]を押します。

パッドマップのロード

パッドマップはセットアップメニュー外でもロード可能です。セットアップを終了するには[Shift]+[Setup/Preset]を押します。

1. パッドの[上/下矢印]ボタンを押すと、パッドマップが即時ロードされます。
2. [上/下矢印]ボタンのいずれかを押しながらパッドを押すことで、パッドマップをロードすることも可能です。

本体の動作に不具合がある場合、または工場出荷時の状態に戻したい場合は、以下の手順に従ってください。

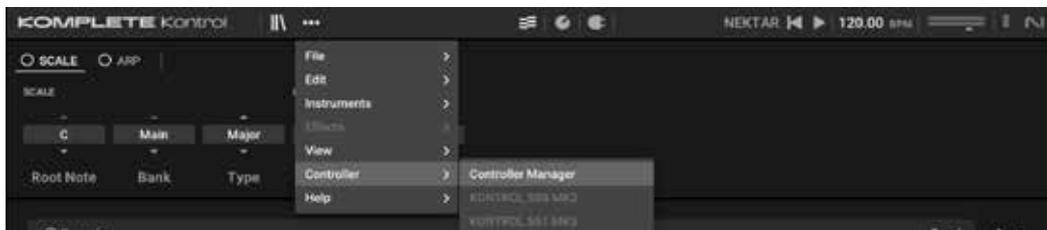
- Impact LXmk3 の電源がオフになっていることを確認します。
- [Octave down]+[Octave up] ボタンを同時に押します。
- Impact LXmk3 の電源をオンにします。

Native Instruments NKSコントロール規格は、Native Instrumentsの豊富なコレクションやサードパーティ製プラグインを含む、数千ものプラグインと互換性があります。NKSを使用するには、まずKomplete Kontrolがインストールされている必要があります。

Komplete KontrolはImpact LX mk3に付属するKomplete Select 15ライセンスの一部なので、すぐに使い始めることができます。ライセンスを取得するには、同梱のKomplete Select 15ページに記載されている手順に従ってください。このページにはバウチャーコードも記載されています。バウチャーコードをお持ちの方は、こちら<[リンク](#)>から申請できます。

Komplete Kontrolのセットアップ

Komplete KontrolをDAWのトラックに挿入するか、スタンドアロン版を起動して起動します。「Settings」>「Controller」>「Controller Manager」に進みます。



コントローラーマネージャーで「Nektar」タブをクリックし、Impact LX mk3を選択します。お使いのモデルに該当するオプションが表示されない場合は、利用可能なオプションから選択してください。



インストゥルメントの演奏、コントロール、およびKomplete Kontrolライブラリの操作

Impact LXmk3をDAWまたはスタンドアロン版Komplete Kontrolに接続すると、Komplete Kontrolライブラリで利用可能なインストゥルメントを演奏できるようになります。

インストゥルメントを演奏できない場合は、以下の点を確認してください。

1. Impact LX mk3の[Inst]ボタンが有効になっていることを確認してください。
2. DAWでKomplete KontrolプラグインがMIDIコントローラーからMIDIを受信しているか確認してください。
3. Komplete KontrolをホストするトラックのMIDI入力をImpact LX mk3に設定してください。
4. トラックの録音アームを有効にして、MIDIを受信できるようにしてください。

Komplete Kontrol がコントローラーに反応しない場合は、DAW が MIDI メッセージを傍受していないか（たとえば、DAW 自身のコントロールに MIDI メッセージをマッピングしているなど）を確認し、DAW のユーザーガイドで MIDI 設定の詳細を参照してください。

Komplete Kontrol と Impact LX mk3 のマッピング

以下は、Impact LX mk3 が Komplete Kontrol のプラグインパラメータにどのようにマッピングされているかを示した概要です。

- エンコーダー 1~8 (1) : 選択ページに応じて 8 つのプラグインパラメータを調整します。
- Up/Down ボタン(2) : 前/次のプリセットに切り替えます。
- Shift +Up/Down ボタン (3+2) : Komplete Kontrol のプラグインスロットに切り替えます。
- Page + Up/Down ボタン(4+2) : エンコーダーにマッピングされているインストゥルメントまたはエフェクトパラメータの前/次のページに切り替えます。



Komplete Kontrol を Nektar DAW インテグレーションで使用する

Nektar DAW インテグレーションでは、インストゥルメントモードでは Komplete Kontrol と同じコントロールを使用しますが、トラックで Komplete Kontrol が検出されると設定が切り替わります。シームレスなワークフローにより、ホストされたプラグインを Nektar DAW 統合経由でコントロールしているのか、Komplete Kontrol 経由でコントロールしているのかを気にすることなく、インストゥルメントモードを選択したままにすることができます。

Nektar DAWインテグレーションとは？

Nektar DAWインテグレーションは、NektarチームがImpact LXmk3向けにカスタマイズした独自の機能とワークフローを提供するために独自に開発したものです。

インテグレーションファイルは、[Nektar入門ページ](#)に記載されている製品登録後、Nektarアカウントから入手できます。

対応DAW

Impact LX mk3は現在、Ableton Live Suite 10以降、Bitwig Studio、Cakewalk/Sonar、Cubase 13以降、FL Studio、Garageband、Logic Pro 10.8以降、Nuendo、Reaper、Reason、Studio One 5以降をサポートしています。その他のDAWをご使用の場合でも、Impact LX mk3をKomplete Kontrol NKSと併用したり、汎用MIDIコントローラーとして使用したりできます。

すべてが正しく設定され、動作していることを確認してください。

DAWとの連携機能に進む前に、以下の点を確認してください。

1. ファームウェアが最新バージョンにアップデートされていること。
2. DAWインテグレーションファイルがインストールされていること。
3. DAWがインストーラーのドキュメントに記載されているとおりに設定されていること。

すべてが正常に動作していることを確認するには、Impact LX mk3の[Play]ボタンを押してください。DAWが再生されたら[Stop]ボタンを押してください。これで、Impact LX mk3とDAWの連携方法の説明に進む準備が整いました。

ナビゲーションとトランスポート

ナビゲーションボタンとトランスポートボタンはグローバルコントロールなので、どのモード（ミキサー、インストゥルメント、プリセット）が選択されているかに関係なく、同じように機能します。各ボタンの下にシルクスクリーン印刷されている二次機能にアクセスするには、[Shift]キーを押しながら対応するボタンを押してください。



次のページでは、各ボタンのノーマルな機能とShiftボタンを併用した場合の機能について説明します。

以下の表は、各ボタンの主な機能と補助的な機能の詳細です。

Button	Main function	Alternate [Shift]	Option
Track ▲	前のトラック	前の8トラックトラック	[Track]を押したままラージエンコーダーを動かすとトラックをスクロールできます。
Track ▼	次のトラック	次の8トラック	[Track]を押したままラージエンコーダーを動かすとトラックをスクロールできます。
Browse ▲	DAWブラウザで前のプリセットをロード	DAWブラウザで列を移動	
Browse ▼	DAWブラウザで次のプリセットをロード	DAWブラウザで列を移動	
Loop ↻	サイクル/ループを有効	現在の選択をクオンタイズ	
Rewind ⏮	再生ヘッドを1小節前に移動	左の位置/ループの最初へ移動	[Inst]+[Rew] 前のプラグインスロットへ移動*
Forward ⏭	再生ヘッドを1小節後に移動	右の位置/ループの最後へ移動	[Inst]+[Fwd]次のプラグインスロットへ移動*
Stop ■	再生を停止	最後の操作をアンドゥ	
Play ▶	再生を開始	クリック/メトロノームをオン/オフ	
Record ●	録音を開始します	DAWが対応している場合、MIDIをキャプチャ	

* Ableton Live Suite, Bitwig Studio, FL Studio and Studio One only

グローバルおよび選択パラメータコントロール

ラージエンコーダーはパラメータをグローバルにコントロールするため、どのモードが選択されていてもアサインは影響を受けません。DAWでコントロール可能なパラメータは、クリックだけで調整できます。対応する[Select]ボタンは、以下の3つのオプションを切り替えます。

- [緑]：現在選択されているミキサーチャンネルのボリュームを調整します。[Select]ボタンを押しながらラージエンコーダーを回すと、チャンネルのパンをコントロールします。
- [アンバー]：インストゥルメントトラックが選択されている場合、フィルターカットオフにアサインされます。[Select]ボタンを押しながらエンコーダーを回すとレゾナンスをコントロールします。
- [オレンジ]：選択されたパラメータをコントロールします。パラメータをクリックしてコントロールします。選択されたパラメータのコントロールは、重要でありながら使いやすい機能です。現在選択されているチャンネルの、オートメーション可能なパラメータであれば、ラージエンコーダーでコントロールできます。チャンネルボリューム、パン、センドレベル、MIDIエフェクト、インストゥルメント、インサートプラグインのパラメーターをクリックして、DAWで何がコントロールできるか試してみてください。DAWによっては、現在のチャンネルだけでなく、すべてのチャンネルに適用されるものもあります。



注：ほとんどのDAWでは、パラメーターをクリックするだけでコントロールできます。

選択されているパラメーターコントロールを使った微調整

パラメーターをコントロールすると、Impact LXmk3のディスプレイに実際の値が表示されます。これは、ラージエンコーダーを使って高解像度で微調整する場合に特に便利です。

- [Select]ボタンがオレンジ色に点灯している状態で、ボタンを押しながらエンコーダーを動かすと、最大10ビットの解像度でコントロールできます。

再生中にLEDボタンの1つが緑色に点滅していることに既にお気づきかもしれません。緑色のLEDは、再生ヘッドが現在位置する小節を表します。8つのLEDボタンは合わせて8小節のバンクを表し、タイムライン上を再生ヘッドが移動すると、バンクも一緒に移動します。(FL Studioについては、別途後述します)

タイムラインナビゲーション

タイムラインナビゲーションの主な機能は次のとおりです。

- 8つのボタンのいずれかを押すと、再生ヘッドを新しい位置に移動します。これは、DAWの再生中かどうかに関係なく実行できます。
- いずれかのボタンを押しながら別のボタンを押すと、ループポイントを設定できます。DAWでループまたはサイクルがまだ有効になっていない場合は、この操作で有効になります。
- [Looper]を押しながら[LEDボタン1-8]を押すと、ループの長さを1小節から8小節まで調整できます。例えば、ループの長さを1に設定するには、[Looper]+[LEDボタン1]を押します。
- [Looper] ボタンを押しながらラージエンコーダーを回すと、ループと再生ヘッドが1小節または100小節ずつ移動します。タイムラインをスクロールすると、ディスプレイに現在位置が表示されます。
- [Shift] + [Looper] を押すと、Looper の有効/無効を切り替えます。
- LED ボタンの色分け：再生ヘッドの位置 = 緑、ループ内の小節 = オレンジ、ループ外の小節 = 黄色。

ループ録音

ループ録音機能は、[Looper] ボタンを 1 回押すだけで以下の操作を行います。

1. クリック/メトロノームを有効化します。
2. DAW のループ/サイクル機能を無効化します。
3. 録音を有効化します。



準備ができたらいつでも再生を開始し、完了したら [Looper] を押します。Looper は以下の操作を行います。

1. クリック/メトロノームを無効化します。
2. DAW のループ/サイクル機能を有効化します。
3. ループポイントをループの周囲に配置します。
4. 録音部分を再生して確認します。

[Looper]ボタンが再生モードになり、ボタンが緑色に点灯します。LEDボタンにはループの長さのみが表示されます。長さを調整するには、[Looper]+[LEDボタン(1-8)]を押します。

ループポイントが設定されたら、トランスポートの[Record]ボタンを押してオーバーダビングするか、[Looper]ボタンを押してタイムラインコントロールに戻り、新しいループの録音を開始できます。

Ableton Live Suite、Bitwig Studio、Logic Proには、通常のタイムラインルーパー制御に加えて、クリップ（Logic ProではLive Loops）の録音/再生機能も備わっています。

Impact LX mk3をタイムラインルーパーモードとクリップモード間で切り替えるには、[Select]+[Looper]を押します。

クリップの録音と再生

タイムライン録音を使用したことがあるなら、操作はご存知でしょう。[Looper]を押すと次のクリップを録音します。

- 点灯していないボタンを押すと、対応するクリップスロットへの録音がトリガーされます。
- [Looper]を押すと録音を停止し、再生を有効にします。
- [Looper]をいつでも押すと、次の空いているクリップでの録音を開始するか、録音を停止します。
- オレンジまたは緑のボタンを押すと、対応するスロットのクリップ再生がトリガーされます。
- 最後にトリガー/録音されたクリップが常に編集用の「選択済み」クリップとなります。
- 8クリップ単位のバンク間を移動するには、[Shift] + [ボタン1-8] を押してバンクを選択します。バンク1にはクリップ1-8、バンク2には9-16などが含まれ、最大64クリップにアクセス可能です。

クリップの複製、ループ長調整、削除

[Shift]ボタンを使用すると、ルーパーで追加のクリップ操作が可能です：

- クリップを複製するには、クリップをトリガーするオレンジ/緑LEDボタンを押し続けながら、目的のLEDボタンを押します。例：[LEDボタン2]を押したまま[LEDボタン7]を押すと、クリップ2の内容がクリップ7に複製されます。※この操作によりクリップ7の既存コンテンツは上書きされます。
- クリップの長さを調整するには、該当LEDボタンを押しながら大型エンコーダーでループ長を設定します。ディスプレイの値は小節単位の長さを表示します。
- クリップを削除するには、[Looper]を押しながらLEDトリガーボタンを2回押します。

クリップのオーバーダブ、半分の長さ/倍の長さ、選択したトリガーと停止

トランスポートはクリップに焦点を当てた機能に使用できます。[Looper]ボタンは修飾キーとして使用されますが、別のボタンを押す前に離すと、録音が始まります。操作を決定する際に[Looper]ボタンを押し続けるのは避けた方が良いでしょう。

トリガー可能な機能は以下の通りです：

- | | |
|-------------------|---|
| [Looper]+[Rew] | : クリップ長を半減。 |
| [Looper]+[Fwd] | : クリップ長を倍増。クリップ長が先に半減されていた場合、この操作で元に戻ります。 |
| [Looper]+[Record] | : 選択クリップのオーバーダブ録音をトグル。オーバーダブはループ長を変更しません。 |
| [Looper]+[Stop] | : クリップ再生を停止（アレンジメント再生には影響しません）。 |
| [Looper]+[Play] | : 選択クリップをトリガー。 |

FL Studioはチャンネルラックのパターンを中心に構築されています。そのためImpact LX mk3のルーパー制御はFL Studioのパターンに焦点を当てています。

既に気付いているかもしれませんが、LEDボタンの1つが緑色で、再生時に点滅します。この緑色LEDは現在再生中のパターンを示しています。8つのLEDボタンは合わせて8パターンのバンクを表しており、Impact LX mk3またはFL Studioで現在のバンク外のパターンを選択すると更新されます。

パターンプレイ

タイムラインナビゲーションの主な機能は以下の通りです：

- 8つのボタンいずれかを押して、8バンク内のパターンを選択します。FL Studioの再生状態に関係なく操作可能です。
- [Looper]ボタンを押しながら大型エンコーダーを操作すると、現在のバンク外のパターンを選択できます。ディスプレイには現在選択中のパターン番号が表示され、リストをスクロールすると更新されます。選択中のパターンはFL Studio側でも更新されるため、スクロール中にカスタム名を確認できます。
- [Shift] + [Looper]を押すとLooperの有効/無効を切り替えられます。
- LEDボタンの色分け表示：
 - 選択中かつ再生中 = 緑
 - 選択中だが非再生 = オレンジ
 - 空ではないが未選択 = 黄
 - 空のパターン = 消灯



パターン録音

ループ録音機能は、[Looper]ボタンを1回押すことで以下の処理を行います：

1. FL Studio内の次の空いているパターンに移動します。
2. FL Studioで録音を開始します。
3. パターンモードで受信するMIDIノートを待機し、演奏準備が整い次第開始できます。
4. 終了したら再度[Looper]を押します。録音が解除され、パターンは録音されたパートの長さに調整されます。
5. [Looper]を押すとプロセスが繰り返され、次の空いているパターンに録音されます。

ステップ4の後 [Looper]は再生モードになっているので、他のボタンを自由に押してパターンを選択し、録音した内容を聞くことができます。

- ループの長さを変えずにオーバーダビング/リプレイスするには、[Looper] + [パターンボタン]を押します。
- 任意の段階でクオンタイズするには、[Shift] + [Loop/Quantize]を押します。
- Impact LX mk3の[Play]ボタンと[Record]ボタンを使って、通常のFL Studioと同じように録音します。

主に複数のチャンネルを跨いでパターンの全楽器編成を構築する場合、元のパターン長を維持したいときは必ず [Looper] + [Patternボタン]を押してオーバーダブしてください。Impact LX mk3の[Track]ボタンを使用すれば、パターンの展開に合わせてチャンネルを移動し楽器を選択できます。

DAWのミキサーは8チャンネルのバンクでコントロールできます。DAWは現在選択されているバンクを8チャンネルの下に線で表示するため、DAWでミキサーを確認できることが重要です。

ミキサーウィンドウを開閉するには、[Shift]+[Mixer]を押します。

ミキサーコントロール パンとセンド

ミキサープリセットがアクティブな場合、フェーダー1~8を動かすと、現在のバンクの8つのミキサーチャンネルをコントロールできます。



フェーダーがバンクの8チャンネルのボリュームパラメータと完全に一致していない場合は、ディスプレイにフェーダーを上下に動かすとスムーズなソフトテイクオーバーが行えます。

- 青のLEDが点灯しているときは、8つのポットで各チャンネルのパンをコントロールできます。
- [Page]ボタンを押すと、エンコーダーが切り替わり、現在選択されているチャンネルの最大8つのセンドをコントロールできます。センドコントロールが有効な場合、白色LEDが点灯します。

LX25 mk3 : Impact LX25 mk3では、8つのエンコーダーでデフォルトで8つのミキサーチャンネルをコントロールできます。[Mixer] ボタンを押しながらエンコーダーを動かすと、パンをコントロールできます。[Page] ボタンが白くセンドに設定されている場合、同じ操作でミュートとソロをコントロールできます。

バンクセレクト (1-8、(9-16) など

プロジェクトに8チャンネル以上のミキサーが含まれる場合、次の8チャンネルグループへバンク切り替え可能です。

- この操作には[Shift]+[Bank>]を押します。これによりコントロールがチャンネル9-16に割り当てられます。
- 同じキーコンビネーションを再度押すと17-24などを制御します。
- 元に戻すには[Shift]+[<Bank]を押します。

LX25 mk3: Impact LX25 mk3では、[Mixer]を押したまま[Octave-]または[Octave+]を押すとバンクが移動します。

ミュートとソロ

8つのLEDボタンは、ミキサーバンクのソロとミュートの状態をコントロールするために使用できます。

ルーパーがオンになっている場合は、[Shift]キーを押しながら[Looper]キーを押すと、モードコントロールに切り替わります。

- チャンネルが録音準備状態の場合、赤いLEDが点灯します。
- いずれかのLEDボタンを押すとチャンネルがミュートされます。ミュートのチャンネルは黄色に点灯します。
- [Shift]キーを押しながら[LEDボタン 1-8]を押すとチャンネルがソロになります。ソロされたチャンネルは緑色に点灯し、その他のチャンネルはすべて黄色に点灯します。

LX25 mk3 : Impact LX25 mk3では、パッドでトラック1~8のミュートをコントロールできます。Mixer]を押しながらパッド1~8を叩きます。これに対応するチャンネルのミュートのオン/オフが切り替わります。Mixer]ボタンを離すと、パッドはMIDIノートのトリガーに戻ります。LX25 mk3でソロ機能をコントロールすることはできません。

現在のチャンネルのコントロール

グローバル・エンコーダー・コントロールは、ボリュームとパンの選択チャンネル・コントロール（[Select]がグリーンの場合）と、プラグインを含むチャンネルのあらゆるパラメーターをコントロールできる選択パラメーター・コントロールの両方で、ミキサー・モードの優れた補助となります。詳細は25ページを参照下さい。

Impact LX mk3に印刷されたシルクスクリーンは、インストゥルメントコントロールのパラメータアサインを分かりやすく説明しています。多くのインストゥルメントプラグインは、ラベルに従ってプリマッピングされており、もちろんDAWのインストゥルメントも含まれています。

- まず、インストゥルメントをホストするトラックを選択します。
- [Inst]ボタンを押してインストゥルメントモードを有効にします。
- インストゥルメントプラグインを表示または閉じるには、[Shift]+[Inst]を押します。
- エンコーダーとフェーダーを調整して、コントロール用にマッピングされているかどうかを確認します。
- Komplete Kontrolをご使用の場合は、NKSコントロールに関する詳細は22ページをご覧ください。

フォーカス/マクロコントロール

Ableton Live、Bitwig Studio、Cubase/Nuendo、Logic Pro、Studio Oneには、Impact LX mk3から操作可能なマクロ、クイック、またはスマートコントロールが搭載されています。

- [Page]ボタンを押すと、LXマッピングされたコントロール（青色LED点灯）とマクロ/クイック/スマートコントロール（青色と白色LED点灯）を切り替えられます。

2ページコントロール

Cakewalk/Sonar、FL Studio、Reaperにはマクロがないので、代わりにLXマッピングされたコントロールのための2ページがあり、カスタマイズのオプションがあります。

- [Page]を押すとコントロールページの選択が切り替わります。青と白のLEDが交互に点灯し、どちらのページが選択されているかを示します。

パラメーターの取得/学習

Impact LX mk3 は、パラメーターをコントロールにアサインするプロセスを簡単にするように設計されています。対応しているすべてのDAWでは、パラメーターを「grab（取得）」、つまりクイックアサインすることが可能です。手順は以下のとおりです。

1. [Inst] がアクティブな状態で、[Shift] キーを押しながらインストゥルメントプラグインのパラメーターを動かします。
2. パラメーターをアサインするエンコーダー、フェーダー、または LED ボタンを動かします。
3. [Shift] キーを放します。
4. これを繰り返して、すべてのエンコーダー、フェーダー、ボタンをお好みにマッピングします。

アサインは、Ableton Live、Cakewalk（[Shift]を2回押して保存）、FL Studio、Logic Pro、Reaper（[Shift]を2回押して保存）、Studio Oneに保存されます。Cubase、Nuendo、ReasonはDAWが開いている限りカスタムアサインを保持します。

Bitwig Studio

Bitwig Studioでは、Impact LX mk3はDAWのリモートコントロールページを使用するように設定されています。Bitwig Studio独自のデバイスの多くは既にマッピングされていますが、Remote Controlsページはフルカスタマイズのための柔軟性を提供します。

Faders

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
F1	MIDI CC	73	127	0	Global	Attack
F2	MIDI CC	75	127	0	Global	Decay
F3	MIDI CC	72	127	0	Global	Release
F4	MIDI CC	91	127	0	Global	Effect depth 1 (Reverb Send level)
F5	MIDI CC	92	127	0	Global	Effect depth 2
F6	MIDI CC	93	127	0	Global	Effect depth 3 (Chorus send level)
F7	MIDI CC	94	127	0	Global	Effect depth 4
F8	MIDI CC	95	127	0	Global	Effect depth 5

Buttons

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
B1	MIDI CC (Toggle)	0	127	0	Global	Bank MSB
B2	MIDI CC (Toggle)	2	127	0	Global	Breath
B3	MIDI CC (Toggle)	3	127	0	Global	Control Change (Undefined)
B4	MIDI CC (Toggle)	4	127	0	Global	Foot Controller
B5	MIDI CC (Toggle)	6	127	0	Global	Data Entry MSB
B6	MIDI CC (Toggle)	8	127	0	Global	Balance
B7	MIDI CC (Toggle)	9	127	0	Global	Control Change (Undefined)
B8	MIDI CC (Toggle)	11	127	0	Global	Expression Controller

Fader

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
E1	MIDI CC	74	127	0	Global	Brightness
E2	MIDI CC	71	127	0	Global	Harmonic Content
E3	MIDI CC	5	127	0	Global	Portamento Rate
E4	MIDI CC	84	127	0	Global	Portamento Depth
E5	MIDI CC	78	127	0	Global	Control Change (Vibrato Delay)
E6	MIDI CC	76	127	0	Global	Control Change (Vibrato Rate)
E7	MIDI CC	77	127	0	Global	Control Change (Vibrato Depth)
E8	MIDI CC	10	127	0	Global	Pan

Faders

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
F1	MIDI CC	7	127	0	1	CH1 Volume
F2	MIDI CC	7	127	0	2	CH2 Volume
F3	MIDI CC	7	127	0	3	CH3 Volume
F4	MIDI CC	7	127	0	4	CH4 Volume
F5	MIDI CC	7	127	0	5	CH5 Volume
F6	MIDI CC	7	127	0	6	CH6 Volume
F7	MIDI CC	7	127	0	7	CH7 Volume
F8	MIDI CC	7	127	0	8	CH8 Volume

Buttons

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
B1	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	1	Mute
B2	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	2	Mute
B3	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	3	Mute
B4	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	4	Mute
B5	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	5	Mute
B6	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	6	Mute
B7	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	7	Mute
B8	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	8	Mute

Fader

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
E1	MIDI CC	10	127	0	1	CH Pan
E2	MIDI CC	10	127	0	2	CH Pan
E3	MIDI CC	10	127	0	3	CH Pan
E4	MIDI CC	10	127	0	4	CH Pan
E5	MIDI CC	10	127	0	5	CH Pan
E6	MIDI CC	10	127	0	6	CH Pan
E7	MIDI CC	10	127	0	7	CH Pan
E8	MIDI CC	10	127	0	8	CH Pan

Faders

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
F1	MIDI CC	7	127	0	9	CH1 Volume
F2	MIDI CC	7	127	0	10	CH2 Volume
F3	MIDI CC	7	127	0	11	CH3 Volume
F4	MIDI CC	7	127	0	12	CH4 Volume
F5	MIDI CC	7	127	0	13	CH5 Volume
F6	MIDI CC	7	127	0	14	CH6 Volume
F7	MIDI CC	7	127	0	15	CH7 Volume
F8	MIDI CC	7	127	0	16	CH8 Volume

Buttons

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
B1	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	9	Mute
B2	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	10	Mute
B3	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	11	Mute
B4	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	12	Mute
B5	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	13	Mute
B6	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	14	Mute
B7	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	15	Mute
B8	MIDI CC (Toggle)	12	127	0	16	Mute

Fader

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan	Param
E1	MIDI CC	10	127	0	9	CH Pan
E2	MIDI CC	10	127	0	10	CH Pan
E3	MIDI CC	10	127	0	11	CH Pan
E4	MIDI CC	10	127	0	12	CH Pan
E5	MIDI CC	10	127	0	13	CH Pan
E6	MIDI CC	10	127	0	14	CH Pan
E7	MIDI CC	10	127	0	15	CH Pan
E8	MIDI CC	10	127	0	16	CH Pan

Faders

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan
F1	MIDI CC	80	127	0	Global
F2	MIDI CC	81	127	0	Global
F3	MIDI CC	82	127	0	Global
F4	MIDI CC	83	127	0	Global
F5	MIDI CC	85	127	0	Global
F6	MIDI CC	86	127	0	Global
F7	MIDI CC	87	127	0	Global
F8	MIDI CC	88	127	0	Global

Buttons

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan
B1	MIDI CC (Toggle)	66	127	0	Global
B2	MIDI CC (Toggle)	67	127	0	Global
B3	MIDI CC (Toggle)	68	127	0	Global
B4	MIDI CC (Toggle)	69	127	0	Global
B5	MIDI CC (Toggle)	98	127	0	Global
B6	MIDI CC (Toggle)	99	127	0	Global
B7	MIDI CC (Toggle)	100	127	0	Global
B8	MIDI CC (Toggle)	101	127	0	Global

Fader

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan
E1	MIDI CC	89	127	0	Global
E2	MIDI CC	90	127	0	Global
E3	MIDI CC	96	127	0	Global
E4	MIDI CC	97	127	0	Global
E5	MIDI CC	116	127	0	Global
E6	MIDI CC	117	127	0	Global
E7	MIDI CC	118	127	0	Global
E8	MIDI CC	119	127	0	Global

Faders

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan
F1	MIDI CC	80	127	0	Global
F2	MIDI CC	81	127	0	Global
F3	MIDI CC	82	127	0	Global
F4	MIDI CC	83	127	0	Global
F5	MIDI CC	85	127	0	Global
F6	MIDI CC	86	127	0	Global
F7	MIDI CC	87	127	0	Global
F8	MIDI CC	88	127	0	Global

Buttons

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan
B1	MIDI CC (Trig)	66	127	0	Global
B2	MIDI CC (Trig)	67	127	0	Global
B3	MIDI CC (Trig)	68	127	0	Global
B4	MIDI CC (Trig)	69	127	0	Global
B5	MIDI CC (Trig)	98	127	0	Global
B6	MIDI CC (Trig)	99	127	0	Global
B7	MIDI CC (Trig)	100	127	0	Global
B8	MIDI CC (Trig)	101	127	0	Global

Fader

Ctrl	Msg Type	CC	Data 1	Data 2	Chan
E1	MIDI CC	89	127	0	Global
E2	MIDI CC	90	127	0	Global
E3	MIDI CC	96	127	0	Global
E4	MIDI CC	97	127	0	Global
E5	MIDI CC	116	127	0	Global
E6	MIDI CC	117	127	0	Global
E7	MIDI CC	118	127	0	Global
E8	MIDI CC	119	127	0	Global

Map 1

	Note	Note No.	Data 1	Data 2	Data 3	Chan
P1	C1	36	0	127	0	Global
P2	C#1	37	0	127	0	Global
P3	D1	38	0	127	0	Global
P4	D#1	39	0	127	0	Global
P5	E1	40	0	127	0	Global
P6	F1	41	0	127	0	Global
P7	F#1	42	0	127	0	Global
P8	G1	43	0	127	0	Global

Map 2

	Note	Note No.	Data 1	Data 2	Data 3	Chan
P1	G#1	44	0	127	0	Global
P2	A1	45	0	127	0	Global
P3	A#1	46	0	127	0	Global
P4	B1	47	0	127	0	Global
P5	C2	48	0	127	0	Global
P6	C#2	49	0	127	0	Global
P7	D2	50	0	127	0	Global
P8	D#2	51	0	127	0	Global

Map 3

	Note	Note No.	Data 1	Data 2	Data 3	Chan
P1	C3	60	0	127	0	Global
P2	D3	62	0	127	0	Global
P3	E3	64	0	127	0	Global
P4	F3	65	0	127	0	Global
P5	G3	67	0	127	0	Global
P6	A3	69	0	127	0	Global
P7	B3	71	0	127	0	Global
P8	C4	72	0	127	0	Global

Map 4

	Note	Note No.	Data 1	Data 2	Data 3	Chan
P1	C1	36	0	127	0	Global
P2	D1	38	0	127	0	Global
P3	F#1	42	0	127	0	Global
P4	A#1	46	0	127	0	Global
P5	G1	43	0	127	0	Global
P6	A1	45	0	127	0	Global
P7	C#1	37	0	127	0	Global
P8	C#2	49	0	127	0	Global

This DOC covers the following USB peripheral keyboard products, referenced collectively as Impact LX mk3:

- Impact LX25 mk3
- Impact LX49 mk3
- Impact LX61 mk3
- Impact LX88 mk3

European Union

Impact LX mk3 has been tested to meet or exceed Emissions and Immunity requirements European Standards EN55032: 2012, EN 61000-3-3: 2013, EN 61000-3-2: 2006 + A1: 2009 & A2: 2009 and EN55035: 2017. Impact LX mk3 is in conformity with the provisions of EMC Directive 2014/30/EU.

EU Importer/Responsible person:

Nektar Technology GmbH, Alter Kirchenweg 83
24983 Handewitt, Germany
Email: eusales@nektartech.com

United States

Impact LX mk3 has been tested to comply with FCC regulations Part 15, SubPart B, Class B, test method ANSI C63.4: 2014.

Dispose of product securely, avoiding exposure to food sources and ground water. Only use the product in accordance with the instructions.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a Particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

United Kingdom

Impact LX mk3 has been tested to comply with UK emissions and immunity regulations. A declaration of conformity can be obtained by contacting Nektar Technology (UK) via email: uksales@nektartech.com.